



2021年度
一般社団法人ここみ

報告書

2021年4月1日～2022年3月31日

目次

序章)

- ・ここみについて
- ・ここみ沿革
- ・数字で振り返るここみの2021年度

1) 事業成果

2) 浜松市委託 子育て支援ひろば

【基本事業】

- ・中区ここみ広場
- ・南区ここみのおうち
- ・浜北区ここみの森

【加算事業】

- ・妊婦支援
- ・多世代支援（親子支援・孫育て支援・多胎児支援）
- ・外国人支援・長期休暇支援

3) 浜松市委託 家庭教育講座

4) 他団体との協働・ボランティア

5) ここみドゥーラ

6) 入退館システム「子育て支援のミカタ」

7) ここみ学びLabo

- ・人材育成
- ・講師派遣

ここでみんなで育ちあい・学びあい・支えあい 非営利型一般社団法人 ここみ



すべての子どもと親が孤立せず
生き生きと心豊かに暮らせる社会を
つくることを目指しています



育ちあい

～孤育てにならないために～
妊娠中から0・1・2歳の親子の居場所

●浜松市委託子育て支援ひろば
「ここみ広場」(中区板屋町)
「ここみこもれび広場@青少年の家」

「ここみのおうち」(南区瓜内町)
(助産院と連携)
「ここみのおへや@新津協働センター」

「ここみの森」(浜北区中瀬)
(中瀬南部緑地会館内、公園併設の施設)
「ここみひだまりひろば@内野台」



学びあい

～子育て支援をキャリアに、
仕事も育児も楽しむ未来のために～

●人材育成

子育て支援者養成、ドゥーラ養成
入退館システムを使った研修

●乳幼児親子の居場所開設コンサル
子育て支援ひろば等の環境コンサル、
おもちゃ選定、バックオフィス業務支援

●講師派遣

父親の育休取得推進講座、
復職準備講座、プレパパママ講座
大学等の非常勤講師



支えあい

～妊娠中から産後まで家族に寄り
添い、家事や育児をサポート～

●訪問型妊産婦サポート

「ここみドゥーラ」
(浜松市はますくヘルパー事業受託)
・家事支援、育児相談支援
・子育ての伴走者としての寄り添い
・地域の子育て資源の情報提供
・ここみの子育て支援ひろばとの連携

※はますくヘルパー対象外の方の全額自費
利用も可能。

※訪問時の短時間託児準備中。



静岡県浜松市中区板屋町692

TEL 070-1616-7424

Eメール info@kokomi-npo.org

HP <http://npa-kokomi.jimdofree.com/>

団体HPはこちらから



【非営利型一般社団法人ここみの概要】

設立 令和3年1月15日

代表者 代表理事 大村美智代

浜松医科大学非常勤講師（助産師養成）、静岡医療科学専門大学校非常講師（助産師養成）

浜松市発達障害者支援地域協議会委員、静岡県男女共同参画会議委員）

役員 理事 小沢めぐみ（ここみチーフディレクター）

大隅和子（合同会社麻彩代表）、河村浩美（リトルハウス合同会社代表）

監事 佐藤和枝（株）ミズ・クリエイション会長、NPO未来化プロジェクト代表、浜松商工会議所女性会初代会長）

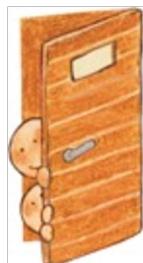
職員数 24名（令和4年3月末現在）

	活動内容等
平成20年度	<ul style="list-style-type: none">・子育て支援の市民団体「浜松の未来を育てる会」設立・子育てひろば公開学習会開催
平成21年度	<ul style="list-style-type: none">・浜松市中区がんばる地域応援事業実施 モデル子育てひろば開催
平成22年度	<ul style="list-style-type: none">・静岡県そだててよしふじのくに民間活動応援事業 支援者研修事業、ひろば運営、託児テキスト制作
平成23年度	<ul style="list-style-type: none">・浜松市子育て支援ひろば事業受託開始「ここみ広場」（現在に至る）
平成28年度	<ul style="list-style-type: none">・「産前産後サポートここみドゥーラ養成事業」講座 (ふじのくに未来財団助成金事業テーマ指定子育て支援)
平成29年度	<ul style="list-style-type: none">・南区瓜内町で妊娠中から012歳の親子のための居場所「ここみのおうち」スタート（静岡県社会福祉協議会先駆的モデル事業助成）・浜松市「はますくヘルパー」を「ここみドゥーラ」が新規受託
平成30年度	<ul style="list-style-type: none">・浜松市子育て支援ひろば3か所運営（「ここみ広場」（中区常盤町）、新規「ここみのおうち」（南区瓜内町）、新規「ここみの森」（浜北区中瀬））
令和元年度	<ul style="list-style-type: none">・浜松こども館より依頼「ここみのおしゃべりサロン」開催（現在に至る）・「浜松版ネウボラを考える」セミナー開催 講師：棒田明子氏（NPO法人 孫育て・ニッポン 理事長、にっぽんネウボラネットワーク研究所 副代表、NPO法人ファザーリング・ジャパン理事、3・3産後サポートプロジェクトリーダー）・支援者対象の「父親支援の勉強会」開催 講師：小崎恭弘氏（大阪教育大学教育学部教員養成課程家政教育講座 准教授、NPO法人ファザーリング・ジャパン顧問）・学生実習受入れ開始（浜松医科大学大学院助産師養成コース助産学実習、浜松医科大学医学部看護学科公衆衛生看護実習、聖隸クリリストファー大学看護学部母性看護実習）
令和3年度	<ul style="list-style-type: none">・浜松市次世代育成課委託「家庭教育講座等業務」受託・IT企業と協働で子育て支援ひろばの利用者管理システム「子育て支援のミカタ」を開発し、運用を開始。PF（浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム）の第2回ソリューションピッチで発表。・ふじさんっこ応援隊大賞受賞

数字で振り返る ここみの2021年度

831回

子育て支援ひろば
開催回数



登録した子の数

1,238名



15,131人

利用した人の延数



学生実習
受け入れ人数

52名



ここみパートナー
累計

40名



産前産後訪問サポート
利用時間数



561時間

1) 事業成果



【妊娠中】 子育て支援ひろば (妊婦支援など)

- 助産師による妊娠・出産・産後・子育てに関する情報提供、個別相談
- ここみドゥーラによる産後の暮らしについての情報提供、子育て支援制度の活用相談
- 来場親子との交流
- 妊婦仲間づくり
- 赤ちゃんを迎える心構えや準備のサポート
- 夫婦のパートナーシップを考える機会

【妊娠中～産後】 訪問型産前産後サポート ここみドゥーラ

- 家事、育児支援
- 育児相談
- 子育ての伴走者としての寄り添い
- 地域の子育て資源の情報提供
- 赤ちゃんとのおでかけ支援（ここみの子育て支援ひろばとの連携）
- ※ここみドゥーラははまくヘルパーとしても活動

【産後2ヶ月くらい～】 子育て支援ひろば

- 子育てを見てまねる場
- 身近な相談相手(スタッフ)
- 専門家による発達相談、子育て相談
- 来場のきっかけ・仲間づくりのための産後おしゃべり・パパおしゃべり
- 親育ちを支える親支援講座（乳幼児の発達、おもちゃと学び、だっこことおんぶ、復職準備など）
- 夫婦のパートナーシップを考える機会

2021年1月に子育て支援の市民団体「浜松の未来を育てる会」（2008年設立）を法人化し、一般社団法人ここみとして新たなスタートを切った。

新型コロナウィルス感染拡大防止のため、ひろばは引き続き定員制での開催となった。不安を抱える来場者にスタッフは常に寄り添い、安心できる居場所であり続けることを念頭に置き、活動をおこなった。

ここみドゥーラ事業は、浜松市のはまくヘルパー事業として5年目となった。コロナ禍でも依頼は途切れず、支援を必要とする家庭のニーズに応えられるよう活動した。ここみドゥーラが訪問した家庭が、子育て支援ひろばを訪れ、継続した支援ができている。

今年度初めて受託した家庭教育講座では保育園やこども園、幼稚園を訪問したことで、園に通う保護者への子育て支援や相談事業の情報提供の実態を知ることができた。

※図はここみの産前から産後までの切れ目ない支援を表している。

2) 浜松市委託子育て支援ひろば事業 基本事業

ここみ広場

基本情報

対象	妊婦、0～概ね3歳未満の乳幼児と保護者、家族	
実施場所	浜松市中区板屋町692	
開催日時	<p>常設ひろば 月～金（月1回日曜開催）9：30～14：30（週5日・5時間/日） 出張ひろば（会場：浜松市青少年の家） 毎週火 9：00～14：00（年間40回・5時間/日）</p>	
年間開催日	常設ひろば 238日（前年193日※1）	出張ひろば 40日（前年32日※1）
年間登録児数	常設ひろば 322人（前年239人）	出張ひろば 80人（前年75人）
年間利用者数（延べ）	常設ひろば 4013人※2（前年2926人）	出張ひろば 635人（前年518人）
一日あたり利用者数	常設ひろば 16.9人（前年15.1人）	出張ひろば 15.9人（前年16.1人）
加算事業	発達支援・妊婦支援・多世代支援・外国人支援・長期休暇支援	

※1 新型コロナウィルスの影響で、4月～5月、7月～8月の一部休館

※2 妊婦の数の拾い方が2021年度より変更。

ここみ広場の特徴

ここみ広場は、2021年4月より、常盤町から板屋町へ移転。浜松市の中心市街地に位置し、近くには浜松駅、遠州鉄道、市役所や商業施設など主要な施設が多くある。浜松駅周辺は利便性がよく、他県からの転入者も多く、ここみ広場の利用者は転勤族の家庭が多いことが特徴。

利用者親子の子どもの月齢内訳を見ると（図1）、昨年度に比べ利用児の数は0歳が1.2倍、1歳が1.9倍増。比率では昨年度より1歳の割合が増え、0歳児1歳児がほぼ同率で、0歳児と1歳児を合わせると93%だった。子育て初めての第1子の子が多く、特に0歳のねんねの赤ちゃんが気軽に安心して行ける施設として、助産師や保健師からの紹介で来場する親子も多い。

相談件数は4月～7月241件・8月～3月175件（常設）※3（前年692件）身近な相談場所として親子の生活を支えている。また、妊娠期からの妊婦とその家族の利用者は延べ131組※2（前年55組）統計の取り方が変更され、これまで子連れでない妊婦のみ妊婦としていたが、子連れの経産婦も妊婦として拾っているため単純に比較はできないが、妊婦の利用は増えている。

来所方法（図2）は、昨年度より自転車を使う方が増え、その分徒歩の割合が減った。それ以外の項目の割合は変わっていないことから、徒歩から自転車へ交通手段が変わったことが分かる。母親たちの行動範囲が広がっていることが伺える。また、遠州鉄道の駅が徒歩5分と、電車の利用も便利なため、沿線沿いの親子の来場があるのが特徴。利用者の居住区別比率は中区93%となっている。

※3 相談件数は4月～7月はExcel集計。8月～3月は入退館管理システムの集計。

図1 年齢別利用児

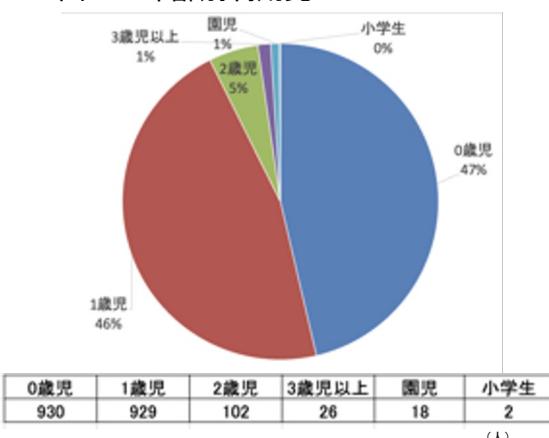
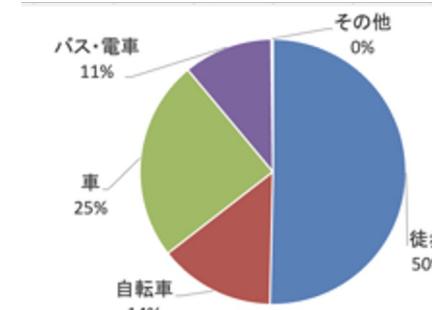


図2 主な来所方法



2) 浜松市委託子育て支援ひろば事業 基本事業

ここみのおうち

基本情報

対象	妊婦、0～概ね3歳未満の乳幼児と保護者、家族		
実施場所	浜松市南区瓜内町148-D（すこやか助産院内）		
開催日時	常設ひろば 月～金（月2回日曜開催）9：30～14：30（週5日・5時間/日） 出張ひろば 会場：新津協働センター 毎週水 9：00～14：00（年間40回・5時間/日）		
年間開催日	常設ひろば	238日（前年197日※1）	出張ひろば 40日（前年37日※1）
年間登録児数	常設ひろば	349人（前年316人）	出張ひろば 104人（前年63人）
年間利用者数（延べ）	常設ひろば	5,187人※2（前年4,829人）	出張ひろば 1,130人（前年772人）
一日あたり利用者数	常設ひろば	22.8人（前年24.5人）	出張ひろば 28.3人（前年20.8人）
加算事業	発達支援・妊婦支援・多世代支援・外国人支援・長期休暇支援		

※1 新型コロナウイルスの影響で4～5月、7～8月1部休館

※2 妊婦の数の扱い方が2021年度より変更

ここみのおうちの特徴

- ・ここみのおうちは、浜松駅南より車で5分程度のところにある。すこやか助産院の建物を借りて平日と月2回の日曜日の日中は子育て支援ひろばを開催している。南区の浜松市委託の子育て支援ひろば3箇所。
- ・利用者親子の子どもの月齢内訳を見ると（図1）、保育園入園を控える0,1歳児の割合が増えた。昨年度増えていた0歳児と兄弟姉妹での来場は減っていることから早い時期から入園する親子が増えていていることが分かる。
特に産後1か月程度の赤ちゃんのいる家庭を助産師が訪問する、赤ちゃん訪問時に紹介されて来場する親子が多いのも特徴。
- ・月2回、日曜日に開催することで父親の来場が増えた。1度来ることで父親の来場のハードルが下がる効果のためか、平日の父親の参加も増えている。
- ・日曜日開催の妊婦支援ではほぼ毎回予約で満席となり、夫婦での参加が多い。南区だけでなく全区からの参加があり、ここみ3か所のチラシを見てと広報の効果が出ている。妊婦支援の日だけでは制度等の説明時間が十分とれないため、別日に妊夫婦と産後親子の交流の日としてプレパパママおしゃべり会を行う。ここみドゥーラスタッフが担当し、浜松市の制度の説明、背守り刺繍の体験を行う。
- ・出張ひろばを新津協働センターにて実施。民生委員と連携を取りながらチラシを回覧してもらうことで、来場者が増えた。
- ・今年度初めて小さく産まれた子同士で交流ができる会を行った。当事者同士で悩みを打ち明けたり共有することで子育てに前向きになったとの声をもらうことができた。

- ・来所方法（図2）は、駐車場があるため車での来場が80%と多い。双子や兄弟姉妹連れなど、車利用が必要な親子の居場所となっているが、残りの20%はほぼ徒歩の来場であり近隣からの来場も多い。

図1 年齢別利用児

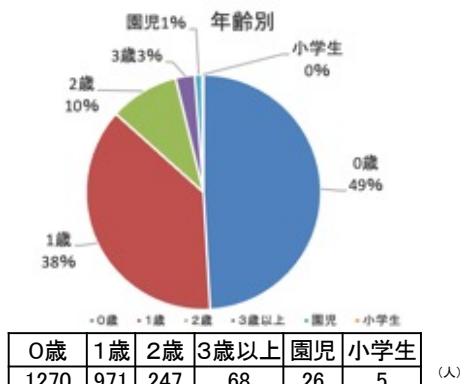
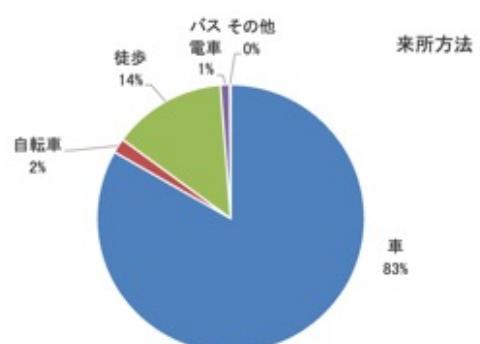


図2 主な来所方法



2) 浜松市委託子育て支援ひろば事業 基本事業

ここみの森

基本情報

対象	妊婦、0～概ね3歳未満の乳幼児と保護者、家族		
実施場所	浜松市浜北区中瀬4486-1 中瀬南部緑地会館内		
開催日時	常設ひろば 火～土（時々日祝）9：30～15：00（週5日・5時間/日） 昼休憩12:00～12:30 出張ひろば（会場：内野台コミュニティ会館） 毎週月 9：00～14：30（年間40回・5時間/日） 昼休憩12:00～12:30		
年間開催日	常設ひろば	235日（前年157日※1）	出張ひろば 40日（前年40日）
年間登録児数	常設ひろば	318人（前年257人）	出張ひろば 65人（前年73人）
年間利用者数（延べ）	常設ひろば	3765人（前年2904人※2）	出張ひろば 401人（前年606人）
一日あたり利用者数	常設ひろば	15.5人（前年18.4人）	出張ひろば 10.0人（前年17.8人）
加算事業	発達支援・妊婦支援・多世代支援・外国人支援・長期休暇支援		

※1 新型コロナウイルスの影響で4～5月、7～8月1部休館

※2 妊婦の数の扱い方が2021年度より変更

ここみの森の昨年実績

・ここみの森は、浜松市浜北区に位置する中瀬南部緑地公園内の会館で開催している。市内では唯一の公園併設のひろば。
浜北区には浜松市委託の子育て支援ひろばは3か所。

・今年度は土日祝日に年間60回開催したことで父親や普段は南区のここみのおうちなどに来場の親子の来場や、土日祝日に開催しているひろばを探して他の区からの来場に繋がっている。

・これまで保育園児の気になる親子については在園児は園とつながっているとの理由から支援のための情報共有が困難であった。保健師が支援が必要だと感じている親子の来場が休日にあることを伝えたことと在園児に関しても連携ができるようになった。これは土曜日開催による成果である。

・土曜日開催の妊婦支援に関してはコロナ禍においては、ほぼ夫婦での予約で満席の状態が継続している。浜北区だけではなく全区からの予約に繋がっており、時代のニーズに合わせた曜日設定や広報の成果が出ている。

・公園が併設されているため、ひろばを卒業した親子の様子を確認することができたり、夏休みなどの長期休暇支援やひろばが満席の時でも公園へ行けることで譲り合いがスムーズに行われている。

・天竜区からの来場も多いため、天竜区の保健師とも定期的に訪問や電話連絡を行っており、連携ができている。

・来所方法（図2）は、公園の広い駐車場があることと利便性の関係から、車での来場がほとんどである。

図1 年齢別利用児

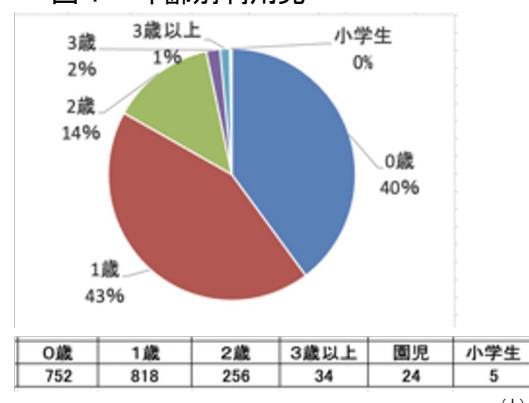
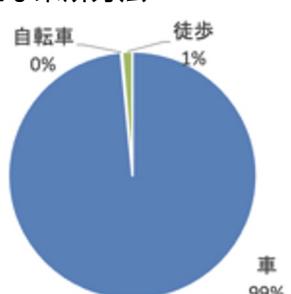


図2 主な来所方法



2) 浜松市委託子育て支援ひろば事業 【加算事業】

妊婦支援

ひろば名	2020年度 妊婦のひろば参加延べ 人数（妊婦支援日）	2021年度 ※1 妊婦のひろば参加延べ 人数（妊婦支援日）	2021年度 【上半期】 3ひろば合計	2021年度【上半期】 浜松市子育て支援ひろば全体 の妊婦延べ参加人数 ※2
ここみ広場	55(45)人	131(56)人	205人	2352人※3
ここみのおうち	35(30)人	242(71)人		
ここみの森	18(15)人	103(65)人		

※1 2020年上半期は感染症拡大防止のため臨時休館あり

※2 令和3年度浜松市母子保健推進会議資料より

※3 令和3年度より子連れの経産婦を含めた計上

妊婦とその家族のひろばへの来場は、2020年度とは数え方が変更になり比較が難しいが、妊婦支援の参加者は増加している。これは新型コロナ感染症予防の観点から、市が開催する“はじめてのパパママレッスン”が少人数定員先着制となり、受講できない妊婦家族が増えたことで、その代替案として、子育て支援ひろばの妊婦支援の受講を積極的に勧めた影響が大きいと考えられる。また、働いている妊婦が夫婦で参加しやすいよう、土日の開催を増やすことで参加人数増につながった。ひろば3か所の妊婦支援1年分のスケジュールを掲載したちらしを父親が手に取りやすいデザインで作成し、産科や図書館などに配架、積極的にここみのブログやSNSで発信、検索に引っかかりやすくなったりとも大きい。

ここみのひろばでの妊婦支援は現在定員予約制にて開催しているが、月2回×3ひろばで開催しており、選択肢が多い。平日のみ開催から土曜開催に変更した「浜北区ここみ森」、土曜開催から日曜開催に変更した「南区ここみのおうち」では増加が顕著で、夫婦での参加が多い。写真のようにみんなで輪になりリラックスした雰囲気の中で行われるため、疑問点や不安なことを直接助産師に聞きやすい。また、あかちゃん人形を使い、だっこやおむつ着替え体験、沐浴の練習も好評である。



助産師による妊婦支援の日の様子

あかちゃん人形で着替え、おむつ替え、だっこ体験、沐浴の練習ができる。

コロナ禍で実家が県外の人は祖父母世代が手伝いに来られない、気軽に助けてもらえない家庭も増えているため、今後もひろばの妊婦支援で少しでも不安な気持ちを解消できるよう努めていく。

妊婦支援利用者の声



日曜日開催（南区）では
夫婦での参加多数

コロナで病院での母親学級がないので、実際に助産師さんから話を聞いてとても勉強になりました。（妊婦）

コロナで立ち合いは難しいので、出産の話が聞けてよかったです。
怖い話(胎盤の話)とかもあったが事前に知っておけてよかったです。(夫)

出産時の不安なことについて詳しく聞くことができ少し不安が
解消されました。（妊婦）

全て初めてのことでの大変勉強になりました。
妻の妊娠中、産後に自分がどのように働きかけなければよいか
またお聞きしたいです。（夫）

たくさん時間をかけて細かい所までお話できて、かなりありがとうございました。（妊婦）



2) 浜松市委託子育て支援ひろば事業 【加算事業】

多世代支援（就学前までの子育て支援・孫育て支援・多胎児支援）

就学前までの子を持つ家族を対象に、祖父母世代や多胎児を育てる保護者などが個々に抱える課題や社会的課題に沿った多彩な講座を企画。

他にはない特徴ある講座をピックアップ。

今年度も感染症対策のため参加組数を5～8組に限定して開催したため参加人数は減ったが、講師とのやり取りや参加者同士の交流がより深くおこなわれた。

『パパのおしゃべり会』

以前からファシリテーターを務めてくれている2男子を子育て中のパパと育児休業を取得したパパなど3人がファシリテーターとしてパパのためのおしゃべり会を開催。

パパ同士で本音トークができると好評な講座。

妊娠中の夫婦や子どもと一緒にざっくばらんな雰囲気の中、普段なかなか出会えない同年代の他のパパたちとパパ目線での話ができる。

Data 6回開催 参加人数：父24/母10/子21/妊夫婦2/延べ57人



パパのおしゃべり会



祖母と母親と孫との三世代での参加



復職準備講座

『赤ちゃんとの暮らしを豊かに』シリーズ

- ①赤ちゃんとの生活・発達
- ②おもちゃとあそび
- ③はじめての歯みがき

赤ちゃんとの暮らしがより豊かになり、親子とともに楽しく成長していく「今日からはじめられる」をモットーに展開する講座。

元園長先生や歯科衛生士、おもちゃアドバイザーの資格を持つスタッフを講師に迎え、どの回も参加親子の個々の悩みを拾い上げながら、皆とも共有することで、「誰しもある悩み」と共感が生まれ、子育てなかまの輪が広がる。



保育園長による「赤ちゃんの育ちをはぐくむ暮らし」の講座の様子

Data 11回開催 平日又は土日曜日 参加人数：父23/母50/子52/祖父母5/その他3/延べ133人

2) 浜松市委託子育て支援ひろば事業 【加算事業】

外国人支援

3つの各ひろばに、通訳が月2回・年間24回訪れ、ひろばを利用する外国人親子の支援を行った。

通訳の配置と実績

中区こみ広場：中国語

　　外国籍の保護者延べ19名 子延べ18名 国籍内訳：中国・台湾

南区こみのおうち：中国語とポルトガル語（月に各1回づつ配置）

　　外国籍の保護者延べ14名 子延べ12名 国籍内訳：中国・ブラジル

浜北区こみの森：中国語・フィリピン語（タガログ語）（月に各1回づつ配置）

　　外国籍の保護者延べ10名 子延べ9名 国籍内訳：中国・フィリピン

定期的に通う親子もあり、ひろばでの再会を楽しみに来場し、家庭ではほぼ話せない母国語を通訳者や他の利用者と話せることで、親自身が楽しめ、子どもにも言葉を聞かせることができるよい機会となっている。また、その場にいた日本人の親子にとっても、文化が異なる国の子育てに興味をもち、多文化的な交流ができた。

2021年度は、中区のこみ広場への中国籍の来場が減。子どもの月齢が大きくなったことや、外国籍の方は特にコロナの感染症を心配し、外出しづらい状況があることも原因であると考えられる。ひろば内において、子育てや子どもの心配事や母国へ帰れない不安を共有した。

南区のこみのおうちでは、浜松医科大学の助産学の先生に隔月に来ていただき、子育て親子に必要な感染症対策や予防接種等の講座を、ポルトガル語で表記したスライドを使って日曜日に開催。日本語を交えての講座のため日本人親子も分かりやすく、ためになったとの声が聞けた。

浜北区こみの森では、土曜日に相談員の先生とフィリピン語の通訳を配置。外国籍の方も母国語で相談しやすい場を提供した。保健師から紹介されフィリピン出身の親子の来場があったが、車がなく夫も仕事があり継続利用には繋がっていない。

平日は参加が難しい外国籍の保護者への周知が課題となっており、母国語で書かれたチラシを作成し関係機関や外国籍の子が多い園等に配布配架依頼するなどの工夫をし、まずはひろばを知ってもらうことに重点を置いた。



通訳者と母国語での会話を楽しむ
外国籍の保護者



講座の内容を説明す
る通訳者



来場者の子どもと遊ぶ通訳者

長期休暇支援

3つの各ひろばにて、春・夏・冬の長期休暇期間（小学校の長期休暇に合わせる）に、幼稚園児や小学生の親子の居場所として広場を利用できる長期休暇支援。

中区こみ広場	合計42日開催	幼稚園児・小学生延べ17名
南区こみのおうち	合計42日開催	幼稚園児・小学生延べ31名
浜北区こみの森	合計42日開催	幼稚園児・小学生延べ29名



スタッフ自作の福笑いを
楽しむ兄弟

夏休みや冬休みなど、子どもの長期休暇中は保護者の育児負担が大きく、特にコロナ禍では他者との交流が減り外出もままならないため、赤ちゃんや園児等も一緒に安心して遊べ、親が気軽に相談や情報交換できる場を作り親子を孤立させない環境づくりをおこなった。また、コロナ禍で実家に帰る機会や親戚と会う機会も減っている親子もいるため、異年齢の交流の促進を図り、小さい子にも配慮しながら、大きい子用のおもちゃや絵本の準備、落ち着いてできる製作物の準備、ボードゲームや季節の行事に合った福笑いなども用意した。

乳幼児や幼児の来場者の親からは、兄弟姉妹の関わり方や複数の子を持つ親の接し方が参考になったとの声が聞かれ、今後の育児の参考になるという支援につながった。

3) 浜松市委託家庭教育講座

浜松市こども家庭部次世代育成課委託家庭教育講座業務等

今年度、初めて公募に応募し、委託を受けた業務である。

「つながりがつくる豊かな家庭教育～子育ち親育ちを支える」をテーマに実施した。新型コロナウイルスの感染拡大が収束しない中での開催という困難もあったが、オンライン開催に変更するなど柔軟に対応することでほぼ計画通り講座を開催することができた。園に出向いての講座は普段は自ら積極的に子育て講座に参加しない保護者の学ぶ機会となり、また、コロナ禍で交流する機会が減っている保護者にとって子育ての情報を得る機会ともなり果たした役割は大きいと言える。今年度は全園対象の父親向け講座、外国人保護者支援のためのポルトガル語通訳付き講座など家庭教育講座ではこれまでにない新たな講座を実施し、参加者からは高い評価を得た。

1. 目的

子育てについての第一義的責任を有する保護者が、子育てや子どもの成長に喜びや生きがいを感じつつ、健全な家庭教育が実現できるよう支援することを目的とする。（仕様書より）

2. 実施した業務

(1) 市内の保育園、認定こども園、市立幼稚園等において家庭教育講座の実施

予定では19園を訪問する予定であったが、コロナ感染拡大の影響で15園の訪問、オンラインでの開催3回、子育てひろばでの開催1回の計19回実施した。参加者は317名。
講師は一般社団法人おもしろ健康教育研究所に依頼した。

(2) 全園対象の父親向け家庭教育講座の実施

父親支援の研究者である大阪教育大学教育学部教授、NPO法人ファザーリングジャパン顧問小崎恭弘氏を講師に招きハイブリッド形式で開催した。会場参加者 28名（夫婦19組）、オンライン参加者 45名（夫婦34組）、3名（園関係者等）であった。参加者からは次年度の実施を望む声が聞かれるほど満足度の高い講座だった。

(3) ポルトガル語通訳付きの家庭教育講座を実施

外国人が多く住む浜松市の中でもいちばん多いブラジル人保護者を対象とした講座を実施した。講師は浜松医大で助産師教育をおこない、ブラジル人保護者への支援の実績もある講師に依頼した。
感染拡大の影響でオンライン開催に変更したところ、20組22名の申込があり、当日の参加者は11組だった。講座のあと講師への質問が多数寄せられ、時間を延長して対応した。

(4) 子育てに関する情報リーフレットの作成

市内の就園児保護者に向けたリーフレット（ひろば情報、相談先情報など）作成を行った。



4) 行政・他団体との協働・ボランティア

浜松市内の大学 実習受入

妊娠から0～2歳の赤ちゃんと親に実際に会い、話を聞くことができる実習。学生はスタッフと一緒に1日を過ごす。

- ・浜松医科大学大学院助産師養成コース助産学 実習5名受入
- ・聖隸クリストファー大学母性看護学 春・秋 実習47名受入

浜松市内の中学校 総合学習授業

浜松市立富塚中学校からの依頼があり、総合学習授業の一貫で乳幼児を育てる親子とのふれあい体験として、ここみ広場を訪問。

令和3年7月16日（金）1時間程度
中学3年生9名（3グループ）を受入

富塚中の子を持つスタッフが、総合学習授業の社会参画に向けた講話の一つに参加し、生徒たちに子育て支援についての課外授業を行なった。市の子育て支援の概要や、今の子育て中の親子の様子、地域での子育て世代との関りなどについて話をした。この授業をきっかけとし、生徒自身が子育て支援に興味を持ち訪問に至った。

訪問の際にもこの時のスタッフが対応し、生徒は親子へのインタビューとふれあい交流を行なった。

生徒たちは親子へのアンケートも作成し、一定期間ひろばでアンケート調査も実施。その結果を総合学習授業で発表したとの報告があった。



ひろばの説明を聞く中学生



乳幼児親子へのインタビュー

しづおか多胎ネット

しづおか多胎ネットとは、平成29年度（2017年度）から協働し、ひろばにて多胎のおしゃべり会を毎年継続して開催している。今年度は、多胎の独自のサークル活動もままならないなか、ひろばでの多胎の活動ができたことで、ふたご家族とも継続して繋がることができた。主な開催ひろばは、駐車場があり多胎家族が来場しやすい南区ここみのおうちと浜北区ここみの森。来場時に手助けが必要な場合は、スタッフに声をかけてもらえるように伝えている。



左端がしづおか多胎ネット高山ゆき子さん。
自身も双子を子育て中。

どおんどの会・えほん文庫

【どおんどの会】

絵本の読み聞かせボランティアとして、長年継続してここみのひろばに来ていただいている。

今年度も5回、各ひろばを巡ってえほんの読み聞かせやわらべうたなどの親子のふれあいあそびを伝えてくださっている。

毎回人気の講座で、多くの親子が交流している。

【えほん文庫】

自宅で絵本の貸し出し等をおこなっている家庭文庫の「えほん文庫」さん。今年度はコロナの状況もあり恒例の読みきかせの会は行えなかったが、ダウン症の親子の来場の際には紹介するなど変わらず連携している。



どおんどの会の読み聞かせ

4) 行政・他団体との協働・ボランティア

浜松市助産師会

南区のここみのおうちでは、すこやか助産院（主宰：浜松市助産師会会長齋藤由美さん）をお借りして子育て支援ひろばを開催しており、産前から産後の切れ目のない子育て支援を協働で行っている。



助産師の齋藤由美さんを囲む妊婦さんや親子@ここみのおうち

ここみパートナーの活動

コロナ禍でのここみパートナーの活動は、緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置の期間は受入れができない時期もあった。それでも、活動できる期間において、積極的に呼びかけを行うとパートナーのみなさんはそれぞれに楽しんでいきいきと参加している姿が見られた。

新規ここみパートナー登録数 9名
内訳：ここみパートナー4名、親子パートナー5名



親子パートナーによる公園あそび

2021年度ここみパートナー説明会

計3回開催（ここみ広場・ここみのおうち）

ここみ広場では、第1回の説明会を経て親子パートナー4名が誕生。説明会では子の昼寝の時間とのことでオンラインでの参加を希望した親子がいたため、ひろばと自宅をオンラインをつなぎハイブリットで実施。ここみパートナーの目的など説明し、今後何ができるか話し合ってもらった。その後、浜松城公園での公園あそびの会を実施した。第2回の説明会では、地域の方2名の参加があった。板屋町の自治会の方と民生委員の方。いずれも地域支援事業の行事で出会い、パートナーの案内をしたところ参加に至った。ひろば事業の説明や、背守り刺繡の会のことを説明したところ、その後の背守り刺繡の会への参加に至った。

ここみのおうちで開催した際は、5組の親子が参加。過去の活動を紹介し、ベビー服のリサイクルや背守り刺繡の会に興味を持っていた。この回では参加者主体の活動が始まるまでには至らなかったが、ひろばでお互いの子の見守りなど、自分たちができることからとの意識を持つもらうことができた。

背守り刺繡の会

ここみパートナー活動の主軸となりつつある背守り刺繡の会は、2021年度は6回開催。延27名の参加があった。

内訳：親子9組、妊婦1名、地域の方17名>



背守り刺繡の会では、自分の子のために縫うだけでなく、これから生まれてくる赤ちゃんを地域のみんなで歓迎している意味を込めて、妊婦さんにプレゼントするプロジェクトも行なっており、そのためのちくちくボランティア（材料はここみで準備し、模様を刺繡する人）の活動も行なっている。地域の方はこの活動に賛同して毎回参加している。

ここみパートナーとは

登録制のボランティア活動部門のこと。

「ここみ親子パートナー（子連れで活動）」と「ここみパートナー（地域の方）」がある。

子どもが育つには街中の人の関わりが必要と言われている。ここみパートナーといっしょに活動することで、より多くの地域の方と親子が触れ合う機会を増やし、みんなで支え合う気持ちをお互いに持てるような活動にしたいと考えている。



地域のおばあちゃんも参加

5) ここみドゥーラ事業（はますくヘルパー事業）

産前産後のサポートが必要な時期に、家庭に訪問して家事支援・育児相談支援などの必要な支援を行う事業。親子が地域とつながるきっかけとなるよう地域の子育て支援ひろばなどの情報を伝え、親子が孤立しないよう働きかけている。

浜松市のはますくヘルパー事業の登録事業者としては、5年目となった。今年度の利用時間数は昨年度とほぼ横這い、依頼が立て込んでしまい、他社を紹介するケースもあった。

昨年度コロナ禍で開催を見送った産前産後サポート基礎講座は11/28, 12/11に第5期を開催。9名の申し込みがあり、8名が終了。4名がここみドゥーラスタッフとして従事し、活動を開始した。

ひろばの妊婦支援スタッフとして産前産後の情報提供を担う

ここみ広場、ここみのおうち、ここみの森では毎月2回、1回2時間、妊婦支援（プレパパママ教室）を開催している。ここみドゥーラは妊婦支援担当として、妊婦に配布する必要な資料の収集、当日の運営、子育て支援の情報提供（はますくヘルパー、産後ケア、民間のサービスなど）などを行なう妊婦支援の充実に努めている。妊婦支援の他、妊婦がひろばに来場しやすいよう「プレパパママおしゃべり会」等を設定。妊婦同士や産後の家庭と交流できる時間を設け、妊婦支援の時間内では難しい交流や赤ちゃんとのふれ合いを通して、産後がイメージできる場となっている。

また、ここみドゥーラ利用者をひろばにつなぐ重要な役割も担っている。



ここみドゥーラ訪問時間数実績



ここみドゥーラ（はますくヘルパー）利用者の声

里帰りをしなかったので、掃除や料理まで手が回らず、サポートしてもらえて助かった。また家にこもりがちで他の人と話す機会が少なかったので気分転換にもなった。



サポートをして下さりつつ、私の相談にのってくださったり、子どもの目線で子どもと話をして下さるところに感動しました。

子育て支援ひろばの様子や、親子の様子も聞くことができ、でかける参考になりました。助けてくれる人がいると思うだけで心が楽になりました。ここみドゥーラさんに来ていただけた日は、余裕をもって子どもに接することができました。

産後、身も心も疲れているところをサポートしていただけたことがとても助かりました。家事以外にも、話し相手になっていただいたり、産後の身体のことや二人育児についてのアドバイスを作業しながら教えていただいたりしたことがよかったです。

6) 入退館管理システム「子育て支援のミカタ」

利用者の入退館管理システム「子育て支援のミカタ」を、CYBER CONNECT（社長:永田卓也）と共同で開発し、2021年度8月よりここみが運営する3つの子育て支援ひろばで運用を開始。

開発にあたっては、子育て支援ひろばを運営しているなかで以前より課題を感じていたことから着想を得て、以下のことをシステムに反映した。

- ①子育て支援ひろば利用にあたって利用者が行う登録の際の手間を簡略化する。
- ②子育て支援者が管理する情報の一元化を図る。

運用を開始し、利用者親子からはおおむね好評で、一度登録すれば次からの負担が大幅に減ること、また、支援者側も集計作業に割いていた時間が大幅に削減され、その分親子のためによりよい支援をすることができるようになった。



システムを利用して受付する親子

現状の課題

【利用者】

初回利用時に紙の「利用者登録申込書」に手書きで登録。また利用の都度、受付簿に手書きで記入。市内50ヶ所の各施設を初めて利用する際には施設ごとに同様の登録を毎回記入しなければならない。

【受託事業者】

紙の「利用者登録申込書」で個人情報を管理し、その日の来場者数は受付簿から手作業（Excel入力か手書き）で集計し市の各報告書式へ転記する。

【子育て支援課】

毎月、受託事業者から紙で提出される報告書をもとに25ヶ所（出張ひろば含め50ヶ所）の来所者数を手作業（Excel入力）で集計。

入退館システムで可能なこと

【利用者】

利用者自身のスマホからフォームを読み取る。ペーパーレス・非接触

初回来場時にシステムへ登録を行うと、次回からの入館手続きがラク。

同じシステムを導入しているここみの3つのひろばにおいては、登録済の利用者が他のひろばへ新規で行った際に再度の登録不要。当日の入館フォーム送信のみで新規の申請をし入館手続きが完了。

【受託事業者】

受付簿がなくなり、1日の利用者数の集計は自動で行われる。

単なる数字の集計だけでなく、利用者の履歴の蓄積とともに、相談内容の登録も可能。

乳幼児家庭において、どんな悩みや困りごとが多いのか、またより丁寧な支援が求められる家庭にはどんなサポートが必要かを検討することに役立っており、子育て支援者の質の向上につながっていく。

初回の登録フォーム（一部）

受付簿代わりの入館フォーム

体温フォームでは今日の気分も

新規登録フォーム	
苗字	
郵便番号	
住所	
電話番号 (緊急連絡先:統制)	000-111-2222-00
他の子育て支援ひろばを利用したことがある	-選択してください-
写真の撮影・SNS等への写真の掲載可否	-選択してください-

入館入力フォーム	
家族No	
苗字選択	-選択してください-
利用者選択	-選択してください-
入館日時	2022/04/08 21:21:25
実場所選択	-選択してください-
階層	-選択してください-
<input type="button" value="送信"/> <input type="button" value="リセット"/>	

体温入力フォーム	
日付	2022/04/08
家族No	
利用者名	-選択してください-
体温	
今日の気分	-選択してください-
現状	
良い	
普通	
イマイチ	
悪い	

7) ここみ学びLabo

2021年度は昨年度開催できなかったここみの各種養成講座や、父親支援について支援者研修講座を開催。コロナ禍でますますニーズが高まったここみドゥーラ事業への依頼増加に伴い、産前産後サポーターの養成講座を開催。また、同時に子育てサポーター養成講座も開催し、産前産後の切れ目のないサポートを担える人材を養成した。

【ここみ研修講座】

研修テーマ

「父親支援とは何か?

～子育て支援における父親支援の役割と今後に期待すること～」

講師：小崎恭弘氏 大阪教育大学教育学部 学校教育教員養成課程家政教育部門 教授
NPOファザーリング・ジャパン顧問



2022年1月10日（月・祝）

参加者：ここみ子育て支援者24名、保健師、大学の先生

小崎先生を招いての研修は2019年度に続いて2回目。

今の父親たちの課題や家庭科保育領域におけるライフバランス、家族写真についてアルバムのナカバヤシとの研究「アルバム研究所」についてなど、最新の父親支援についての情報を学んだ。



10月30日にここみ事業説明会を実施し、ここみの取組をまず知つてもらう機会を作ったところ、8名参加があった。その説明会を受けてその内の数名が以下の子育ちサポーター養成講座や産前産後サポート基礎講座を受講した。

【産前産後サポーター養成講座】

第5期産前産後サポート基礎講座

2021年11月28日（日）、12月11日（土）

受講者8名（主婦・助産師・看護師・保育士・子育て支援者）
浜松市以外からの参加者3名。



講座内容

- ・子育て支援の現状とニーズ
- ・赤ちゃんのお世話、離乳食
- ・調理の衛生管理と工夫
- ・乳幼児の遊びなど



【子育ちサポーター養成講座】

第10期子育ちサポーター基礎講座

2021年11月14日（日）

受講者5名（主婦・看護師・保育士・子育て支援者）

講座では、以下のことを学びあつた。

- ・今の子育ての現状と課題について（親子の困りごとなど）
- ・浜松市の子育て支援ひろば事業について
- ・子育て支援者として必要なスキルの一つである傾聴のワーク
- ・子育ちサポーターの役割について

最後に、自分にできる子育て支援を考えるワークを行い、皆でそれぞれの思いを共有し合つた。



7) ここみ学びLabo

【講師・委員等派遣実績】

講師：大村美智代

一般社団法人ここみ代表理事、マザーリングラボ代表
大学・専門学校非常勤講師
育休後アドバイザー・ドゥーラ・産前産後コーディネーター
タッチケアセラピスト



- ・浜松医科大学大学院助産師養成コース助産学特論 非常勤講師「子育て支援」
- ・静岡医療科学専門大学校特別講義「子育て支援の現状とニーズ」
- ・NPO法人子育てひろば全国連絡協議会実践交流セミナー分科会話題提供
- ・「レジリエンス」浜松市立上島小学校学校保健委員会
- ・「レジリエンス」浜松市立曳馬中学校学校保健委員会
- ・「イキイキ人生のための感情とのつきあい方」（協働センター2か所）
- ・復職準備講座（子育てひろば）
- ・浜松市発達障害者支援地域協議会委員、静岡県男女共同参画会議委員

講師：小沢めぐみ

子育ち環境コーディネーター・おもちゃコーディネーター
ベビーウェアリングコンシェルジュ



- ・「子どもの発達とおもちゃ」森町子育て支援センター
- ・「親子にやさしいだっことおんぶ」引佐協働センター
- ・「10歳児ママのおしゃべりサロン 全3回」佐鳴台協働センター
- ・「ここみのおしゃべりサロン～親子にやさしいだっことおんぶ～」
浜松こども館
- ・「ここみのおしゃべりサロン～赤ちゃんがよろこぶ手作りおもちゃ～」
浜松こども館
- ・「乳幼児期に大切な3つのこと」浜松市立南保育園
- ・「親子にやさしいだっことおんぶ」小豆餅ゆすらうめこども園
- ・「はじめてのおもちゃ」富塚協働センター
- ・「親子にやさしいだっことおんぶ」舞阪協働センター

講師：落合純子

日本離乳食・小児食育学会認定歯科衛生士



- ・「ここみのおしゃべりサロン～歯科衛生士と赤ちゃんの歯のこと話そう～」
浜松こども館
- ・「はじめてのはみがき」富塚協働センター
- ・「はじめてのはみがき」舞阪協働センター



非営利型一般社団法人こみ

☎430-0928

静岡県浜松市中区板屋町692

お問い合わせ

Mail: info@kokomi-npo.org

Tel: 070-1616-7424

HP: <https://npa-kokomi.jimdofree.com/>

FB: <https://www.facebook.com/kokomi.Hamamatsu/>

Twitter: https://twitter.com/kokomi_hiroba

LINE公式アカウント: @kokomi